

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人 英生会 英生会グループホームゆめみの(さなえ別2)	評価実施年月日	平成19年5月8日
評価実施構成員氏名	石井文将・大谷みさき・鏡美里・赤羽望・和田恵子・塚田由香・中田明美・家塚聖子・新さおり		
記録者氏名	石井 文将	記録年月日	平成19年6月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	入居者の視点に立った事業所独自の理念を掲げ、家族や地域にも開示している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員は常に理念が掲載された名札を携帯し、理念に沿ってカンファレンスやケアを行っている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	事業所パンフレットや広報に掲載している。事業所内の見やすい所に掲示し、家族にも説明している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	回覧板をまわす時や、行事に参加してもらう事で交流を深めるようにしている。		毎年、夏祭りや収穫祭を行い、地域の方に参加して頂いている。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の消防訓練や地域の催し物(しめ縄作り・盆踊り等)季節の行事に参加し交流している。		盆踊り敬老会の誘いがあり、参加し交流している。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	お祭りや収穫祭の場を利用し、介護相談の場を設けている。広報には認知症について連載し、家族や地域に発信している。		研修に行った職員を中心として、認知症等についての講習会を開く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価と外部評価の結果を照らし合わせ、出来ていない事や、今後取り組みが必要な事について話し合い、改善に取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議では、入居状況の報告と事故報告、行事計画などについて報告し、そこでの意見を取り入れサービスの向上に活かしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>行政機関への提出書類は速やかに作成・提出し、不明点や疑問点等を質問や相談し、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修会に参加した職員が、詰所会議等で報告し、職員全員で学んでいる。入居者1名が成年後見制度を利用している。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>今まで夜勤は実働16時間であったが、職員のストレスの緩和を図るため4月より実働8時間の準夜/深夜にしている。</p>	<p>日中の職員配置が4人体制となり、日中と夜間でのストレスの緩和が確保されるようになった。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前に本人・家族には必ず1度見学にきてもらうようにしている。理解・納得の上で契約して頂いている。利用契約書・重要事項説明書を十分に読んで頂き、口頭での説明もしている。各2部作成し、契約後、家族に各1部、事業所に各1部と保管している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常のコミュニケーションから、入居者の意見・希望を聞き、反映されるようにしている。実習生やボランティアの受け入れなどをしており、また面会時間等の制限もないため、外部者へ表せる機会を設けている。		その都度、入居者の希望時に家族に電話をしたり、家族にも協力をして頂き、面会等を自由に出来るようにしている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時にその都度報告しており、体調変化などは速やかに電話にて報告している。また、写真付きの個別新聞を家族宛に発行している。お小遣い帳を作成し、預かり証にサインして頂き、領収書は家族にお渡ししている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族にアンケートに協力して頂いたり、面会時に何でも言って頂ける様な雰囲気作りを心掛けている。苦情受付窓口を設けており、苦情があった際には、速やかに改善へ取り組み、報告書の作成を行い、記録している。		行事や家族会の時に、家族と職員でのコミュニケーションを取る時間を設け、意見や要望を聞いていく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	詰所会議・ユニット会議にて全体で意見を言える場を設けている。その都度、管理者に意見を言える環境である。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事等で人員が必要な時には、柔軟に職員の人数を増やしている。必要があれば、勤務変更等にて調整するよう努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	大幅に職員が代わることがないよう配慮している。担当者が変わった場合は、家族や入居者へ報告・挨拶し、情報の引継ぎを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族と面談を行い、在宅診療・訪問歯科・訪問看護との連携や床屋利用の説明を行っている。入居後、速やかに本人や家族の希望を元に初期計画を作成している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂いたり、入居して間もない不安定な時期は、いつでも一時帰宅(外泊)出来るように家族と対応を検討し連携を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	何事にも、入居者だけを楽しませるだけでなく、自分たちも楽しむ姿勢で過ごしており、支えあう信頼関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族にしか出来ない事、職員にしか出来ない事を話し合いながら、協力し合い、一緒に支えていく関係を作る努力をしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の面会時に日常の様子、職員の対応などを報告し情報交換をしている。また、行事等の参加を家族に促したり、より良い関係が築けるように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入居者一人ひとりに合わせ、個別に外出の機会を設けている。これまでは主に外食やショッピングが多かったが今後はもっと情報収集し、馴染みの場所への外出機会を増やしていきたい。		馴染みの場所への外出の機会を増やす。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を把握し、関係が良くない入居者同士のトラブルを助長させないような配慮をしている。また、孤立しないよう、スタッフが間に入り、入居者同士のコミュニケーションがとれるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院などで、退居になった方のお見舞いに行く等、関係を断ち切らない付き合いをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らしの方の希望や意向は本人に聞いている。困難な場合は、家族と職員間で話し合い、出来るだけ本人本位に支援出来るよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人個人の経験や生活歴を把握し、その都度家族との情報交換に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者との関わりから知り得た現状を職員間で共有し、その方にとって適切なケアが出来る様、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成時は家族や必要な関係者と話し合い、意見やアイデアを反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎に介護計画を作成(見直し)しており、その間にも新しい変化には即対応し、その都度計画を追加/変更している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画作成の際には、これまでの記録を参照している。カンファレンスでも職員間での気づきを報告し合い、情報を共有しながら、計画に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診など家族が付き添い出来ない場合等、事業所職員で対応するなど、家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	事業所でボランティアの協力を得たり、文化祭への参加をしているが、入居者個人での社会資源の活用は多くない。職員間でも地域の資源を知り、支援する必要がある。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	在宅事業所(訪問看護)、併設事業所のケアマネージャーと常に連携を取っている。本人の体調や希望により、訪問の床屋も利用してもらっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、情報の共有に努めている。		本人の意向や必要性に応じて、より密接に協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人主体が病院であり、定期的に在宅診療にきてもらっている。状態に応じ、他の医療機関の訪問診療も受けている。通院は基本的に家族同行の受診としているが、家族対応が難しい場合は職員が代行するようにしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人理事長(院長)がシルビアホームでの研修を受け、在宅診療時に日常の入居者の姿を通じて適切な指示、助言をもらっている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、訪問看護ステーションとの契約に基づき、医療面での助言・相談を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	母体である病院での入院の場合は、特に密接な関係・情報交換が出来ている。他の医療機関での入院でも、その都度面会等に行き、情報交換に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	グループホームでの看取り、医療機関での終末など、家族の意見を聞き相談し、職員が認識してケアを行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	月2回の在宅診療等で医師と職員が連携を取り、急変時に速やかな対応が出来るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>医療機関へ入院となった場合なども、生活環境、支援内容、注意点など情報提供し、職員が面会(見舞い)にいくなどして、リロケーションダメージを最小限にするよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>周囲に人がたくさんいる時などは、プライバシーに関わる会話を避け、個人情報に関わる話題などは、個別に対応するなど配慮している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>外出や買い物で自分の好きなものを買ったり、入居者の希望することを、なるべく叶えてあげられるように支援している。</p>		<p>職員と1対1での外出に機会を増やし、本人の希望する場所へ買い物や外出をしている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、その時々で本人の意思や気持ちを尊重し、出来るだけ個別支援を行うよう努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月に1回程度、訪問の床屋に来て頂いたり、外に出て理美容院へ行くこともある。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>糖尿病の方が多く、カロリー計算をしているが、入居者の意見や好みを取り入れた献立を作成している。いつも入居者と職員と一緒に食事をしており、調理、準備、片付けなど、出来る事を一緒に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望があれば、飲酒・喫煙が出来る環境である。現在、喫煙を希望される方はおらず、飲酒は外食や行事等の時に楽しまれている。おやつは喫茶店に食べに行ったり、好みの物を食べる事が出来るように支援している。飲み物も好みに応じて提供している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックを行っており、それぞれのトイレサインを職員間で共有し合っている。個々に応じたトイレ誘導を行い、排泄の失敗や、オムツの使用を減らすようにしている。トイレ誘導時も、トイレ内で見守りが必要な方以外は、トイレの外で待機し、プライバシーの配慮をするなど、ここにに応じて支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴することが出来るシステムにしており、個々のペースで入浴して頂けるよう、個人個人の曜日や時間は設定していないが、夜間・早朝の入浴は、他入居者の緊急時に直ぐ対応出来る状態を考えた上で、職員が2名以上配置されている時間帯に入浴して頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床・就寝時間は、個々の生活習慣に合わせている。表情や状態を観察しながら、昼寝を促し休息して頂けるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家族・本人より、伺った生活歴や持っている力を活かし、自然な形で役割分担が出来ている。日課として担っている役割も、無理強いわず行って頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人的な買い物の際には、自分の買い物である事を意識してもらい、財布から自分で直接お金を出し、支払い出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	「今日は天気が良いからドライブしましょうか？化粧品がなくなったから、買い物に行きましょう」等、個人個人の声に耳を傾け、外出の支援が出来るよう心掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	誕生日等、特別な日には、気の合う入居者同士や家族との外食の機会を設けるなど、普段なかなか行けない場所へ行けるよう支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	キーパーソンに確認し、了解の得られない場合には、いつでも家族へ電話できるようにしている。(1日に何十回もある場合には、家族と相談し家族の負担にならないようにしている。)		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂けるように、居心地の良い環境づくりを心掛け、家族と職員の信頼関係が築けるよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が中心となり、常に呼びかけ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関には鍵をかけず、自由に出入り出来るようにし、職員は見守り、所在確認を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の状態を把握したうえで、昼夜安否・所在確認を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物(爪切り、ハサミ等)は、職員が管理しており、使用する際は見守りを行っている。本人で管理できる方は、自己管理しており、職員が定期的に確認を行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故対策委員会で、月に1度会議を行っている。事故が起きた際、なぜ事故が起きたか背景を考え、同じことが起こらないよう取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員全員が、応急救護の研修に参加し、急変時に対応出来るよう学習している。また、マニュアルも作成し、急変時に困らないようにしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を行っている。ビデオを見て学習したり、実際に避難することで、対応や避難方法を把握できるようにしている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々の状況を把握し、来居時または、電話連絡等で説明し、話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	皮膚の状態等は更衣・入浴時等で異変の発見に努めている。また、日常を把握することで、行動や表情、顔色の変化を速やかに発見出来るよう努めている。医師・上司・看護師に報告し対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の状態に合わせ、牛乳やセンナ茶を提供し、下剤のみに頼らない便秘解消法に取り組んでいる。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	薬情を見て、薬の内容・副作用について把握するようにしている。服薬の確認を行い、普段と違う症状等が出た際には、速やかに報告している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	義歯の洗浄やうがいの促しは行っているが、毎食後は行えていなく不十分である。		口腔内の状態や力に応じて、毎食後促す又は介助にて清潔を保てるよう支援して行きたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べられない物は、代替食を提供したり、水分は飲みやすいものを提供するなど、個々に合わせた支援を行っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染の対策マニュアルを作り対応している。また、月に1度感染対策委員会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒の予防のため、台所、調理器具等の衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周囲に植木や花を植えている。事業所の表札(看板)を木造りし、温かい雰囲気になっている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ソファーや植物を置いたり、入居者の作品を飾るなどしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にある空間を充実させ、風景などの写真を飾り、落ち着きやすい自由な空間を作っている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人・家族と相談し、好みの家具や使い慣れた生活用品を選んで持参して頂いている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の淀みを感じたときは、適時換気を行っている。また、室温は26 以上にならないように、こまめに温度計を確認し、暖房・換気などで温度調節をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>要所要所に手すりがついており、また、障害物になるような物は活動範囲内に置かないよう配慮している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個人個人の力を把握し、混乱や失敗をしそうな場面では、さりげなく寄り添い、未然に防ぐ努力をしている。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダへは、自由に出入り出来るようになっており、玄関先にはベンチとテーブルを設置し、日光浴を楽しんだりできるよう工夫している。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の数 $\frac{2}{3}$ くらいが 職員の数 $\frac{1}{3}$ くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者数 $\frac{2}{3}$ くらいが 利用者数 $\frac{1}{3}$ くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等数 $\frac{2}{3}$ くらいが 家族等数 $\frac{1}{3}$ くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)